

くまびょう

111号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
9月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519



高気圧酸素治療装置を導入して



この度、9月1日より高気圧酸素療法を開始いたしました。

高気圧酸素療法は、2-3気圧の圧力環境下で高濃度の酸素を吸入することにより血液中の水分に酸素を溶解させることを目的としています。その結果、大気圧下で空気を吸入している状態では動脈血中の酸素分圧が100mmHgであるのに対して、2気圧下で、純酸素を吸入することにより800-1,000mmHgと大きく増やすことができます。

適応疾患としましては、突発性難聴、一酸化炭素中

高気圧酸素治療の適応疾患

救急的なもの（発症後1週間以内）

- ・急性一酸化炭素中毒その他のガス中毒（間歇型を含む）
- ・ガス壊疽
- ・空気塞栓または減圧症
- ・急性末梢血管障害
 - a) 重症の熱傷または凍傷
 - b) 広汎挫傷または中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害
- ・ショック
- ・急性心筋梗塞その他の急性冠不全
- ・脳塞栓、重症頭部外傷、若しくは開頭術後の意識障害または脳浮腫
- ・重症の低酸素性脳機能障害
- ・腸閉塞
- ・網膜動脈閉塞症
- ・突発性難聴
- ・重症の急性脊髄障害

非救急的なもの（発症後1週間を超えたもの）

- ・放射線または抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍
- ・難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
- ・皮膚移植
- ・スモン
- ・脳血管障害、重症頭部外傷または開頭術後の運動麻痺
- ・一酸化炭素中毒後遺症
- ・脊髄神経疾患
- ・骨髄炎または放射線壊死

毒その他のガス中毒、重症熱傷、外傷性の脳脊髄障害などに対して主に使用されています。特に突発性難聴への早期治療は高い効果が期待されます。登録医の先生方からのご紹介をお待ちしております。

(救命救急センター救命救急部長 高橋 毅)

第21回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

第21回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が下記の要領で開催されます。多数の御参加をお待ち致します。

日時 平成18年9月11日(月) 19時~21時
場所 〒860-8554 熊本市手取本町8-9 テトリア熊本ビル くまもと県民交流館パレア
TEL 096-355-4300 (代)

内容 1. 開放型病院連絡会総会 (10階 パレアホール)
1) 紹介症例の呈示 2) パネルディスカッション「病診・病々連携の在り方」
2. 懇親会 (7階 鶴屋ホール) 懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。

なお、当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証(裏面2ページを参照下さい。)の発行をご希望の先生は、会場で写真撮影を実施させていただきます。また、施設見学(MRI、マルチCT、ガンマカメラ、心血管造影室、その他)をご希望の先生は、18時30分までに病院玄関にお集まり願います。見学終了後、タクシーにて連絡会会場までご案内致します。(お車でご出席される先生方は、当院専用駐車場(城内プール跡地)もご利用できます。その場合、必ず駐車券を会場にお持ち下さるようお願い致します。)

【参加申込先】 国立病院機構熊本医療センター管理課 (担当: 西田、上園)
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)



「地域医療の中核病院」

柏木医院

院長 柏木 孝史



最近、基礎疾患を有した患者さんも多く、紹介病院を考慮する際にも併設科目を考えます。その点、国立病院機構熊本医療センターは総合病院として充実した診療科を持っておられるので、大変勝手ながら安心して御紹介させて頂いています。

さらに救急外来の果たしている役割は、地域にとって益々大きくなっていると思います。救外受診後の緊急入院を考えますと、日頃からの大変なご努力があるのだろうと思います。

私も以前救急病院に勤務しておりましたので、緊急のためのベッド確保に苦勞した記憶があり、断らない救急外来を行うためには、救急外来の先生方はもちろん、病院全体の協力がなければやっていけないでしょう。

今や国立病院機構熊本医療センターがカバーする範囲は、かなりの広範囲に及んでいると思いますし、今後も、その必要性は益々広がっていくことと思います。それにつれて、救急外来の受診者数も増加していくのではないのでしょうか？

マンパワーなくして、救急や重症管理医療は出来なんでしょうが、医局制度が崩壊していく中、人材の確保も重要な課題になるでしょう。そう言う意味では、患者さんにとっては勿論、研修医にとっても魅力ある医療機関であることが必要とされています。それには所謂高度先進医療等へのアプローチも必要と思います。

高度先進医療と地域医療の両立は、そうそう簡単なことではないと思いますが、アドバイサリー・コミティー会議等を通して外部からの意見をも取り入れようとされている姿勢は、病診連携の意味からも素晴らしいと思います。

国立病院機構熊本医療センターが、これからも地域中核医療の中心となって発展されることを祈念しております。

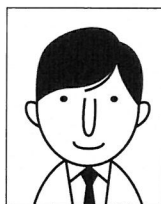
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係 (TEL 096-353-6501 内線390) までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成18年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

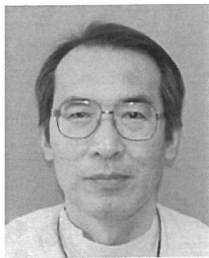
1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

2006

診療科紹介(3)

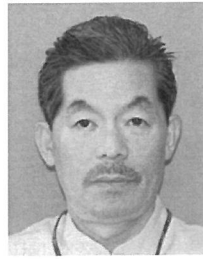
総合医療センター(3)

内分泌・代謝内科(糖尿病センター)



東 輝 一 朗

内科一般、
 内分泌・代謝疾患、糖尿病
 日本内科学会指導医
 日本内分泌学会内分泌・代謝科専門医
 日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医
 日本糖尿病学会専門医
 臨床修練指導医
 日本人間ドック学会人間ドック認定医
 日本医師会認定産業医
 日本内科学会九州地方会評議員
 日本内分泌学会九州地方会評議員
 日本内分泌学会代議員
 国際医療福祉大学特任教授



小 堀 祥 三

内科一般、脂質代謝、糖尿病、
 動脈硬化、内分泌・代謝疾患
 日本内科学会指導医
 日本糖尿病学会専門医
 日本糖尿病学会研修指導医
 日本糖尿病学会九州支部認定委員
 日本糖尿病学会学術評議員
 日本動脈硬化学会評議員
 日本肥満学会評議員
 日本病態栄養学会評議員
 熊本大学医学部非常勤講師
 熊本大学医学部臨床教授



児 玉 章 子

内科一般、糖尿病、
 内分泌・代謝疾患、救急医療



市 原 ゆ かり

内科一般、糖尿病、内分泌・代謝疾患

診療実績

平成17年度の入院患者は321名で、糖尿病では2型糖尿病116名、低血糖33名、妊娠糖尿病17名、1型糖尿病9名、非ケトン性高浸透圧性昏睡3名、糖尿病性ケトアシドーシス2名、内分泌疾患では、バセドウ病7名、甲状腺クリーゼ2名、副甲状腺機能低下症2名、甲状腺機能低下症1名、原発性アルドステロン症1名、アジソン病1名、原発性副甲状腺機能亢進症1名、異所性ACTH産生腫瘍1名、汎下垂体機能低下症1名でした。

教育研究

教育・研修施設としては平成9年より日本糖尿病学会認定施設、平成16年より日本内分泌学会認定教育施設に認定されています。

臨床研究面では、毎年多くの学会活動や論文発表を行うとともに厚生労働省国際医療協力研究、厚生労働省厚生科学研究、政策医療臨床共同研究などの研究に参加しています。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

2006

診療科紹介(3)

総合医療センター(3)

内分泌・代謝内科(糖尿病センター) 続き

ご案内

外来は、月曜日から金曜日まで毎日行っています。糖尿病教育は、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士がチームを組んで取り組んでいます。現在3名の糖尿病療養指導士がいます。

年に3回(3月、6月、10月の第三水曜日)、試食会の後にテーマを決めて行う糖尿病教室と週に2回の集団栄養指導(やさしい糖尿病教室)を行っています。糖尿病教室の参加は自由です。

糖尿病教室編集委員会編「わかりやすい糖尿病教室テキスト」(じほう社)を活用しています。糖尿病の

日常診療にも十分役立つ内容です。

三木会(糖尿病・高脂血症・高血圧を語る会)を毎月第三木曜日午後7時より地域医療研修センターで開催しています。御参加を歓迎致します。



三木会の風景

高度先進医療「血管新生療法」が承認されました

自己骨髄単核球移植による血管新生療法は、高度先進医療として全国で14施設認可されてきました。今回、当院も高度先進医療を申請し、全国で15番目、熊本県で最初の施設として承認されました。

治療の対象は、経皮的血管形成術、バイパス術の適応がなく、また、薬物療法を行っても日常生活が著しく障害される方です。当院で平成14年11月から開始し、現在までに20症例施行しました。動脈硬化性(閉塞性動脈硬化症)12例、非動脈硬化性8例(バージャー病5例、膠原病2例、外傷性1例)です。

【方法】全身麻酔下に腸骨から骨髄液を採取し、単核球を濃縮分離し、患肢に数十箇所筋注します。

【結果】1:全例翌日から、自覚症状の改善を認めました。2:すでに壊疽を合併した症例は、同時に切断術を行いました。最低限の切断で済みました。3:術後急性期に改善した症例は、その後も症状の悪化を認めず、維持できています。4:膠原病、外傷性による血行障害に対しても非常に有効でした。5:残念ながら閉塞性動脈硬化症の症例で、術後改善せず、切断

となった症例もありました。

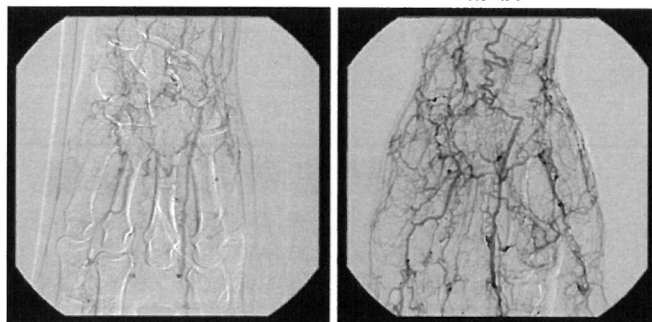
以上のような結果で、自己骨髄単核球移植による血管新生療法は、他に治療法が無い末梢血行障害に対して、非常に有効でした。

最近、徐々に症例が増加してきており、また、重症化してきています。血管新生療法を施行する症例は、合併症も多く、他に有効な治療法がありません。治療の限界もありますが、適応となる症例に積極的に自己骨髄単核球移植による血管新生療法を行っていきます。

(心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝)

術前

術後



最近のトピックス

口腔・咽頭癌の手術



感覚器センター
耳鼻咽喉科医長

緒方 憲久

口腔・咽頭領域の進行癌の治療は手術が中心となります。早期癌であれば放射線治療（化学療法併用）も選択肢の1つになりますが、進行癌では安全域を含めた拡大切除が必要になります。口腔・咽頭領域は嚥下、構音機能に関与しているために切除範囲が大きいと同機能が著しく低下します。そこで欠損部分を補う再建法が大きな意味をもってきます。また、口腔内から到達・切除できる範囲は限られているために腫瘍へのアプローチ法も重要となります。本稿では実際の口腔進行癌（舌癌）症例を呈示して摘出法、再建法に関して若干の解説を行います。

症例 口腔癌（舌癌、T4N2bM0、扁平上皮癌）

腫瘍は舌左縁を中心に存在しており舌の大半を占拠していました。周囲筋肉にも浸潤していました（図1）。

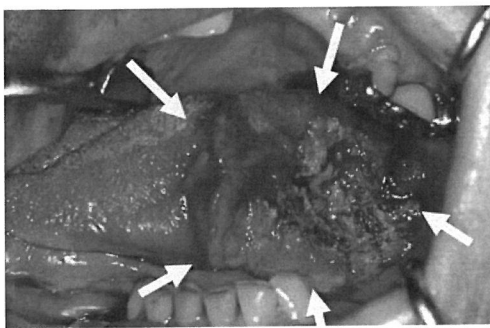


図1 舌左側縁に存在する腫瘍

また、患側の頸部リンパ節転移を複数個みとめていました。このような症例では頸部郭清術に引き続きpull throughといわれる方法で腫瘍の切除が行われます。口腔底粘膜の切開を行い、舌（腫瘍）を下顎骨の裏面を通して頸部に引っ張り出して頸部から明視下に切除する方法です。本症例では健側舌根のみをわずかに残した舌全摘が行われました。切除後は顎下部から口腔内を見上げると口蓋（上あご）が見える状態になります。

口腔・咽頭内の大きな欠損の再建には遊離腹直筋皮弁が用いられることが多いです。下腹壁動静脈を血管茎とした筋皮弁であり、かなり大きな欠損にも対応できるのが特徴です。挙上した皮弁を使って口腔内で舌・咽頭を再建後に血管茎を頸部に通します。頸部の動静脈とマイクロ下に吻合することで移植再建が終了します（図2）。

再建の基本は保存し得た組織（舌、咽頭粘膜）の働きを最大限に生かすように皮弁を調整することです。術後に嚥下ができないということは、経口摂取で誤嚥（誤嚥性肺炎）を引き起こすことを意味しますが、これまでの経験で舌進行癌においては舌根をわずかでも残せた場合は十分な量の皮弁で再建を行うことで経口摂取が可能になっています。ただし、下顎骨や咽頭も合併切除しなければならないときは嚥下が難しくなることが多く、肺炎の予防のために喉頭摘出も検討しなければならない場合もあります。



図2 再建後の口腔内所見（半年後）

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

救命救急薬剤投与の病院実習を終えて



人吉球磨消防本部
救命救急士
豊永 浩

平成18年 7月24日から28日まで、薬剤投与病院実習をここ国立病院機構熊本医療センターで実施させて頂いた豊永です。

実習担当医師の高橋毅先生をはじめ救命救急医の先生方、救命救急室の看護師の皆様には大変お世話になりました。

熊本市内の救命救急センターのある病院での実習は、今回が最初です。救急救命士になり5年の私にとって、薬剤投与を行うためだけの実習ではなくこれからの自分の救急活動を行うなかで大きな自信になりました。

実習にあっては、3回の薬剤投与の症例がありまし

た。やはり、重症例ということで、患者収容前の受入準備段階からの緊張した空気の中での実習であり、私自身、3mlのシリンジで薬剤のアドレナリンを吸引することが初めてであり、上手に素早く行うことが出来ませんでした。大変申し訳なく思いました。実際現場で使うには訓練あるのみと感じた次第です。救命救急士にはプレフィルドシリンジしか使用することが出来ないのが分かったような気がします。

また、静脈穿刺も何度か実施させてもらいましたが、細い血管の人や心肺停止の方へは非常に難しく今後の大きな課題です。ルートが確保できて初めて薬剤が投与可能となるのですから。

今後、職場復帰してからも、ここでの緊張したなかでの二次救命処置の現場体験を活かし、病院前救護の現場で頑張りたいと思います。5日間という短い期間での研修でしたが、地元で行った場合の1月分の実習量になると感じており、本当に貴重な体験ができました。

病院の皆様のご活躍を祈念いたしまして結びと致します。本当に有難うございました。

■ 研修のご案内(1) ■

第17回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成 18年 9月 5日(火) 18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「子宮頸癌 最近の話題」

司会 福岡レディースクリニック院長 福岡 啓造
国立病院機構熊本医療センター産婦人科 福田潤一郎
国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 三森 寛幸

その他、一般演題を数題準備しています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第45回 シンポジウム(無料)

日時▶平成18年 9月 9日(土) 15:00~18:00

[日本医師会生涯教育講座 5単位認定]

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「医療の将来 —今後の地域医療連携を考える—」

1. わが国の地域医療連携の過去・現在・未来
2. 公的病院の立場から
3. 医師会の立場から
4. 行政の立場から

日本医科大学医療管理学教授 長谷川敏彦
国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡
熊本県医師会理事 田代 祐基
埼玉県保健医療部長 中村 健二

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

第79回 最新医学の知識講座(無料)

日時▶平成18年 9月 13日(水) 19:00~21:00

[日本医師会生涯教育講座 5単位認定]

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「消化器癌の診断治療法の進歩」

座長 熊本県医師会副会長 藏元 昭一
熊本大学大学院医学薬学研究部消化器外科学教授 馬場 秀夫

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

■ 研修のご案内(2) ■

第205回 初期治療講座(会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]
[日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定]

日時▶平成18年9月23日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「不明熱へのアプローチ」

座長 熊本市医師会 井 重博

1. 診過ごし易い細菌性心内膜炎の診断 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝
2. 診過ごし易い血液疾患の診断 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 武本 重毅
3. 不明熱に対する検査の組み立て方ー不明熱検査クリティカルパスー

国立病院機構熊本医療センター内科部長 清川 哲志

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第92回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成18年9月25日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「良好な経過を示したB型劇症肝炎の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 渡邊 丈久

4. ミニレクチャー「急性前骨髄性白血病のヒ素療法」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科医長 日高 道弘

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL:096-353-6501(代表)FAX:096-325-2519

第79回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成18年9月27日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

特別講演「救急患者のプレホスピタルケア」 山口大学医学部生態侵襲医学講座教授 前川 剛志

症例検討「脳血管障害」 国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第61回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]
[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年9月28日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

1. 糖尿病療養指導士(CDE)を取得して~管理栄養士の立場から~

国立病院機構熊本医療センター管理栄養室 尾上 陽子

2. 超速効型インスリン(インスリンアスパルト)に対し、局所アレルギーを呈した1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

緒方真貴子、市原ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

3. 1年間でインスリン依存状態に内因性インスリン分泌能低下した緩徐進行I型糖尿病の1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

高橋 亜紀、緒方真貴子、山村 明子、市原ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、小堀 祥三、東 輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線796

平成18年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修ホール	会議室	その他
1日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
2日(土)	13:30~16:30 第104回 看護卒後研修(会費制) (※9月30日変更分) 「院内感染防止」	国立病院機構熊本医療センター感染症認定看護師 吉田真由美	
4日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
5日(火)	18:30~20:30 第17回 熊本がんフォーラム 「子宮頸癌 最近の話題」 司会 福岡レディースクリニック院長 福岡 啓造 国立病院機構熊本医療センター産婦人科 福田潤一郎 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 三森 寛幸	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
6日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(木)	18:30~20:00 病薬連携研修会		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
8日(金)			
9日(土)	15:00~18:00 第45回 シンポジウム 「医療の将来 -今後の地域医療連携を考える-」 1. わが国の地域医療連携の過去・現在・未来 2. 公的病院の立場から 3. 医師会の立場から 4. 行政の立場から	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 日本医科大学医療管理学教授 長谷川敏彦 国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 熊本県医師会理事 田代 祐基 埼玉県保険医療部長 中村 健二	
11日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
12日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同プログラム C
13日(水)	19:00~21:00 第79回 最新医学の知識講座 「消化器癌の診断治療法の進歩」	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 熊本県医師会 副会長 蔵元 昭一 熊本大学大学院医学薬学研究部消化器外科学教授 馬場 秀夫	17:00 消化器疾患カンファレンス C
14日(木)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
15日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
16日(土)	14:00~16:00 第192回 滅菌消毒法講座(会員制) 「滅菌の基礎」 看護研究	国立病院機構熊本再春荘病院麻酔科 柴田 義浩	10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
19日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
20日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
21日(木)		19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
22日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
23日(土)	15:00~18:00 第205回 初期治療講座(会員制) 座長 熊本市医師会 井 重博 「不明熱へのアプローチ」 1. 診過ごし易い細菌性心内膜炎の診断 2. 診過ごし易い血液疾患の診断 3. 不明熱に対する検査の組み立て方-不明熱検査クリティカルパス-	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科 武本 重毅 国立病院機構熊本医療センター内科部長 清川 哲志	
25日(月)	19:00~20:30 第92回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
27日(水)	18:30~20:00 第79回 救急症例検討会 特別講演「救急患者のプレホスピタルケア」 講師 山口大学医学部生体侵襲医学講座教授 前川 剛志 症例検討「脳血管障害」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
28日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M 19:00~20:45 第61回 三木会 研4F (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]
29日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 研4F 教育研修棟4階 学校 看護学校

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)